

### ■ストックマネジメント事業推進キャラバン隊活動報告

宮城県農村整備課内に「農業水利施設ストックマネジメント事業推進キャラバン隊」を結成し、11月1日(金)から12月5日(木)にかけて、県内18市町・23土地改良区を訪問し、ストックマネジメント事業の概要・今後の予算措置等について意見交換を行いました。

計画的に事業を推進していくために「**農業水利施設ストックマネジメント機能保全対策事業管理計画**」の見直しを行い、平成28年度から平成37年度までを第1期、平成38年度から平成47年度までを第2期として、県・市町村及び土地改良区の事業量を把握し、予算の平準化を図るものです。これまで、財源の問題等から対策工事へスムーズに移行できない等の問題点がありました。引き続きストックマネジメントの重要性と10年、20年後を見据えた整備計画が推進されるよう、市町村・土地改良区へ予算措置をお願いして参ります。

なお、訪問できなかった市町村・土地改良区につきましては、次年度以降研修会等を通じて、意見交換をしていきたいと考えております。



### ■ストックマネジメント研修会開催

今年度は11月、12月及び2月に3回のストックマネジメント研修会を開催しました。11月、12月では「リスク管理」を研修テーマとして、二間堀揚水機場(美里町)及び江尻排水機場(角田市)で現地研修を行い、2月の研修会では、各班に分かれ実際に機能保全計画を作成するためのグループ討議を行いました。今後、ストックマネジメント事業を推進していく上で、機能保全計画の作成は重要なポイントとなります。

特に**水利施設整備事業(地域農業水利施設保全型)【団体営】**を進める上では、独自に機能保全計画を作成することが、採択基準の緩和と経費の削減につながるため、真剣に研修に参加されている姿が見られました。

来年度につきましても、新たな研修計画を立て、最終目標である施設管理者が自ら機能診断、機能保全計画の策定ができるよう、研修内容を充実していきたいと考えております。

なお、研修会では、土地改良区のベテラン職員が班長となり、グループ討議をまとめていただきました。



### ■農業水利施設ストックマネジメント台帳整備について

昨年、農業水利施設維持管理状況調査にご協力をいただきありがとうございました。現在調査結果を取りまとめ中です。これまで以上に精度の高い台帳となりますので、農業水利施設の維持管理に、より一層役立てられます。なお、配布は7月頃を目標としております。

## ■石巻市北方土地改良区からの情報提供 ～維持管理のすゝめ～

石巻市北方土地改良区では、機場の機関士及び維持管理担当職員による用水施設の定期的なメンテナンスを行っています。下の写真はその様子ですが、業者に外注した場合一般的に500千円程度（ポンプ規模により変動）の作業内容になります。

2年に1回程度を目安にポンプの開放点検を行い、内部の損耗状態を確認し、整備計画を立てる際の基礎資料とすることが可能となります。



1.小配管取り外し



2.上ケーシング解放



3.内部清掃・点検



4.内部ケレン



5.内部塗装



6.上ケーシング内部塗装

## ■ストマネクイズ

右の写真はどちらも同じ用途でポンプ設備に設置される機器です。一体これはなんでしょう？答えは一番下にあります。



○問い合わせ先 宮城県農林水産部農村整備課 水利施設保全班 TEL 022-211-2876

HP <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonse/sutok1-1.html>

宮城県土地改良事業団体連合会 管理指導部 TEL 022-263-5812

※どちらも無送水検知器です。送水状態を検知して、ポンプの空運転を防止するための物ですが、送水状態の検知方法に違いがあります。

左は逆止弁の弁アームピンに直接連結され、弁の開閉角度によって送水の有無を検知し信号を送るものですが、内部に水が溜まりやすく構造上水抜きも難しいため、冬期間に凍結で割れる場合があるのが弱点です。

右の写真は主配管に小径の配管を介し直接設置される圧力検知式の無送水検知器です。構造上、水抜き等のメンテナンスは不要で、故障も比較的少ないため、近年、用排水施設でも広く使用されています。

なお、前述のタイプの検知器が凍結により破損した場合、回路の簡単な改造で圧力検知式に交換可能です。